

中央大学特定課題研究費 ー 研究報告書 ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	阿部 幸信		
NAME	ABE, Yukinobu		

1. 研究課題

（和文）門闕動物像の左右配置と雌雄表現の伝播に関する歴史地理学的研究

（英文）Historical Geographical Study on the Left/Right Arrangement and Male/Female Representation of Animal Statues in Front of a Gate

2. 研究期間

2年間（2017～2018年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

世界各地の門前にみられる左右一対の動物像のうち、特に獅子像の左右配置と雌雄表現が伝播した経路を、歴史地理学的・人類学的視点から検討した。左右非対称の空間配置と聖俗・陰陽などの価値観との関係を別決することが目的で、世界各地の遺跡・各種施設での実地調査と、博物館における遺物調査を併用して研究を進めた。古代オリエントの獅子像は左右とも雄であったが、2世紀の中原または江南において雌雄を区別する表現が生まれ、7世紀に關中、8世紀に日本に伝わった。雌雄一対の形式は12～13世紀に東南アジア半島部、15～16世紀に琉球・台湾に達した。東アジアでは基本的に左雌右雄であるが、6世紀の江南で左雄右雌形式が現れ、關中・東南アジアへ広がった。生殖器によって雌雄を表現する表現は、紀元前6世紀頃に東地中海域で生じ、ディアドコイ諸国を介して中国に伝わったが、ヨーロッパ・華北では消滅し、長江下流域・日本・琉球に部分的に残存するにすぎない。他方、ヨーロッパではファザードの左右で高さの異なる尖塔をもつ教会建築が存在し、一部では高い方をアダム、低い方をイブと称する。この形式が現れるのは13世紀のことで、モンゴルにより東方の空間配置が伝えられた可能性があるが、ヨーロッパの獅子像は一貫して左右とも雄である。左右非対称性のみられるユーラシアの東西では左右を循環する宇宙観が認められ、上下を軸とする宇宙観をもつヒンドゥー圏と対照をなす。

（英文）

Male/female pairing of animal statues appeared in Zhong-yuan area or Jian-nan during 2. century CE. Though this spread to the East and Southeast Asia, the European accepted its pairing as an architectural style. Left-right circulating cosmologies in these area is obviously different from the up-down circulating cosmology of the Hindudom.